

調査名： 河川における放射性物質の移行状況調査

代表研究者：恩田 裕一（機関名：筑波大学ほか）

1. 調査の目的

- 昨年 6 月期に実施した第 1 次調査において、河川から河口に輸送される放射性セシウムは、調査箇所によって、放射性セシウムの総輸送量に対する河川水及び浮遊砂による放射性セシウムの輸送量の比率は異なるものの、河川水に比べて浮遊砂による輸送量の方がはるかに大きいことが確認された。
- そこで、河川中における浮遊砂による放射性セシウムの移行状況について確認するため、福島県内の 30 箇所の河川調査箇所において、河川における土砂流出(浮遊砂)を定期的に採水し、当該試料の放射性セシウムの放射能濃度を測定する他、河川中を流れる放射性セシウムの輸送量についても測定する。
- また、環境省により採取された河底土サンプルの粒度分析を行い、河底を流下する土砂に伴う放射性セシウムの移行状況について調査を実施する。

2. 調査内容

- 30カ所の地点（図1参照）において、流量・濁度・浮遊砂サンプラーを設置し、80km 圏内広域における放射性核種の移行状況を確認する
 - 測器はすべて納入済み、キャリブレーションもまもなく終了。まもなく設置許可がおり、9月下旬までの設置を目指す。
 - データ解析およびモデリングについては、先駆的な研究を行っているプリマス大のグループと解析・モデル化について、具体的な協力方針について話し合った。

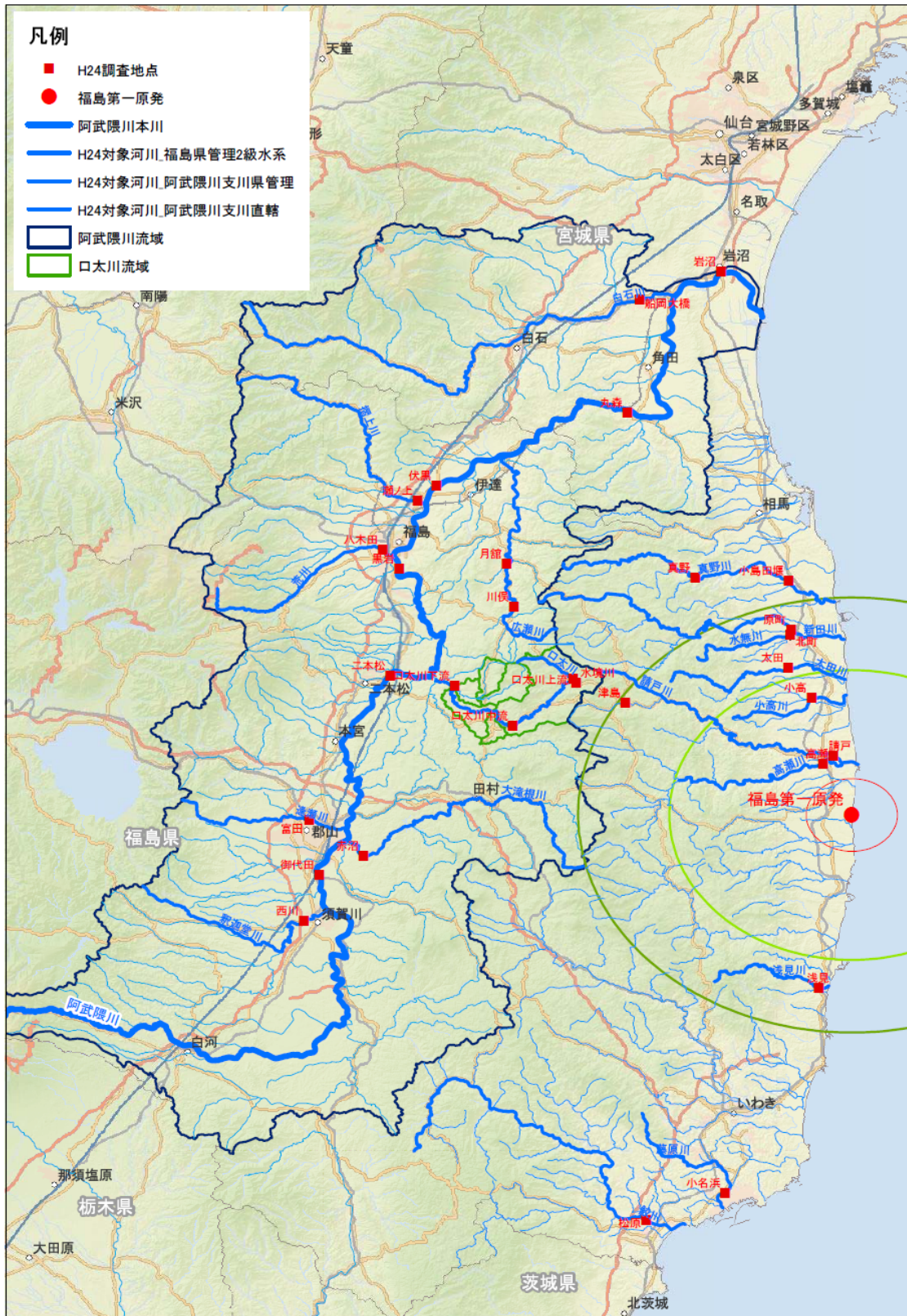


图1 浮遊砂・濁度測定位置図